

「えびな市民まつり」 参加団体・ボランティアスタッフを募集

えびな市民まつり実行委員会事務局では、今年開催の「えびな市民まつり」の参加団体とボランティアスタッフを募集します。

◆まつり参加団体
 出店・出演などに参加希望の方は、募集要項（4月16日頃から同事務局で配布。市ホームページからダウンロードも可）の内容をご確認の上、お申し込みください。

※政治・宗教（布教活動を含む）に関わる出店・出演はできません

▽開催日 7月28日（土）・29日（日） ※荒天中止

▽参加対象 原則として市内在住・在勤・在学の団体 ※個人募集なし ▽当日までの流れ

①募集要項・申請書の内容確認 ↓ ②申請 ↓ ③実行委員会にて選考 ↓ ④決定通知などの連絡 ↓ ⑤参加費の入金 ↓ ⑥当日出店・出演

◆ボランティアスタッフ
 開催期間中は、どの時間帯もボランティアスタッフを必要としています。ご協力いただける方は、ぜひお申し込みください。

※募集内容は、市ホームページをご覧ください
 ※募集内容は、市ホームページをご覧ください
 ※募集内容は、市ホームページをご覧ください
 ※募集内容は、市ホームページをご覧ください

申 5月25日（金）までに、同まつり実行委員会事務局（市民協働課内、☎235・4794、e-matsuri@city.ebina.kanagawa.jp）へ。

「1000 Kids—Performance」 出演者を募集

1000 Kids—Team事務局では、「えびな市民まつり」で、県内でも最大級の、子どもだけによるダンスパフォーマンスを開催します。

ダンスに興味ある子どもはもちろん、初心者も大歓迎。ぜひご参加ください。

▽会場 海老名中央公園 ▽対象 原則として小学生 ▽練習日・場所 4月から月2回程度・市役所、青少年会館 ※学校・子ども会・クラブなど、団体単位の個別練習をご希望の場合は、指導スタッフを派遣しますので、ご相談ください。

申 5月31日（木）までに同事務局（市民協働課内、☎235・4794、e-matsuri@city.ebina.kanagawa.jp）へ。



子どもの読書活動を進めます

「海老名市子ども読書活動推進計画」を策定

今、子どもたちの生活の中には、ゆとりを持って読書に親しむ時間が少なくなっています。

読書活動は、言葉を通じて、想像力を豊かにするために欠かせない活動です。そのため、より多くの子どもたちに、読書を楽しむ機会と場を提供することが必要となっています。

これらことから、市では、「海老名市子ども読書活動推進計画」を策定しました。これは、家庭・地域

・学校などで、読書に親しむ環境や機会を提供すること、読書を子どもの健全な成長の一助とすることを目的としています。

計画には、①読書に親しむ環境づくり（図書館の蔵書充実・読み聞かせ活動ほか）②読書に親しむ機会の提供（「赤ちゃん絵本コーナー」「おはなしひろば」「一日図書館員」「自動車文庫」ほか）③読書情報の提供と啓発（「子ども読書の日」での子ども参加行事の開催ほか）など、市が今

◆新シリーズ◆

「自助・共助・公助」と「市防災計画」
 さあ! 「共助」
 ～地震発生後の対応～

生活安全課 ☎235・4790

今回は、阪神・淡路大震災級の地震が本市に発生したものと想定し、地震発生後どのように対応したら良いのかを考えましょう。

◆隣近所で協力を
 ①家族の安否確認を
 ②家の倒壊等で下敷きになり救助が必要になったら、「助けて!」と大声で叫

消防団第1分団 器具置場が完成

市消防団第1分団器具置場の建て替え工事が完了し、3月21日、消防団関係者や地元自治会により落成記念式典が行われました。地域に密着した防災施設



海老名市消防団受章の「まとい」市役所に展示

海老名市消防団は今年2月、(財)日本消防協会の最高栄誉賞である「まとい」を受章しました。

これは、市消防団が災害から住民の生命と財産を守るため、努力を重ねた功績を高く評価されたものです。また、このまといは、3月19日に厚木市文化会館で行われた神奈川県消防



び、隣近所と協力して簡易救出を
 ※簡易救出とは…簡易な機材（ボール・ジャッキ等）を使用した、多数の人の協力による救出
 ③火が出ていたら「火事だ!」と大声で叫び、隣近所と協力して消火活動を
 《阪神・淡路大震災では、火災による被害は7000棟・死者約500人》
 ④救助や火災が発生したら119へ通報
 ⑤自宅の安否確認が済んだら隣近所を確認。救出が必要な人がいたら、簡易救出を
 ⑥隣近所に要援護者がいたら、地域の人で支援する
 ※要援護者とは…災害時に支援を要する人々。一般的には高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊産婦など
 《同大震災の救助のうち、全体の8割程度は簡易救出

で助けられ、救出された人のうち9割以上は、隣近所の協力によるものと推定される》
 《何かに挟まれて圧迫され、窒息した人で、30分以内の救出で助かった可能性のある人が多数いた》

◆ガス・電気のチェックを
 ①プロパンガスは、ガスボンベの開閉弁を閉める
 ②都市ガスは、家への取り入れ配管の開閉弁を閉める
 ③電気ブレーカーは遮断する
 《同大震災では、避難中の留守宅などで、送電回復に伴う火災（電気火災）が初期消火されずに発生した》

◆避難所へ行く際の注意
 ①住宅が危険で住めない状態になったら、隣近所の人達と一緒に、指定の一時避難場所へ（要援護者がいたら、支援をしながら移動）
 ※住宅が危険かどうか判断できない場合も避難所へ。できるだけ早い時期に住宅の「応急危険度判定」を実施します
 ②移動時は、狭い道・塀沿い・川べりなどを避ける
 ③非常食などを持ち出せるようであれば持つていく
 ④火災に注意。火災から逃げる必要がある場合は、広域避難場所へ
 《火災は、風速7m/sで1時間100㎡延焼する》
 ⑤広域避難場所は地区割をしていますが、あくまで目安ですので、必ず指定場所へ行かなければならないわけではありません。また、避難所は地区割をしていないので、近くに避難所があれば、そちらへ避難してください

◆災害用伝言サービスの利用を
 家族・親族の安否確認は、地震発生後3日程度は、消防市役所に問い合わせの電話はせず、「災害用伝言サービス」などを利用してください（行政の電話がパンクし、災害に関する情報の収集・伝達に支障をきたします）

◆地震で壊れない家作りを
 一番重要なことは、地震で壊れない家作りです。家が倒壊しなければ、家の下敷きになることも、被災後に不自由な避難所生活をすることもありません。耐震診断をして、家の耐震補強を行いましょ。

便利です! 「えびな安全・安心メールサービス」
 登録は ebi@post.ebina.jp
 詳しくは、市ホームページまたは市生活安全課へ